

〈コースのごあんない〉

富士北まちづくりセンターを起点、終点とした、全長4.6kmの通常コース（所要時間1時間程度）と、体調や体力によってお楽しみいただけるよう、全長7.9kmの健脚コース（所要時間2時間程度）も設置しました。歩くことによる健康増進とともに、富士北地区の歴史を散歩できるようにしたコースです。

〈コース周辺の見どころ〉

五味島山神社（大山祇神社）

主祭神に山の神様である大山祇神、配神に火伏せの神の秋葉神と、交通の神の厳島神が祀られています。創建年代は不明ですが、明和5年（1768）に豪農花崎氏が社殿のある神社の形態に整えたと伝わります。天保15年（1844）、この頃続いた天災からの復興を願って村内で勤進大相撲が興行され、当時の板番付が保存されています。

米之宮浅間神社

富士北地区で最も歴史の古い神社ですが、戦国時代までに度々戦禍や災害に遭い、多くの記録が失われて由来等の詳細は不明です。江戸時代から、富士山の神とされる木花開耶姫命を祭神とし、大宮の浅間大社と密接に関わり多くの人の信仰を集めています。

天満宮

江戸時代初期、富士川の治水強化と新田開発のために、古郡氏三代は半世紀に渡って難工事に挑み、加島代官古郡重年の時に、雁堤を完成させて大事業を遂げました。重年はこの大業成就を神の加護と思い、この天満宮を篤く祀ったといいます。天満宮の祭神である菅原道真公は一般に天神様として信仰されることから、この辺りは「天神河原」と呼ばれています。

英霊墓地

中央の彰忠碑は大正9年（1920）10月の建立で、当時の戦没者の霊を祀っています。また、平成15年に建立された平和の礎（地球儀）には、太平洋戦争や終戦後シベリア等で抑留され犠牲となった県民の鎮魂と平和を祈る言葉が刻まれています。

安立寺

寛文5年（1665）、日蓮宗岩本山実相寺の中興の祖である第九世日恒上人が、安立庵という一字を建てたのが最初です。宝永年間（1704～10）には、実相寺第十九世日鉢上人が、照心山安立寺という一寺を建立して隠居したため、開基を日鉢上人としています。現在の本堂は平成14年に新築したものです。

慈祥院

加島代官古郡重年は、娘が重篤な病を患ったとき、養子をとって神仏に仕える僧に育てるという誓いを立て、天神河原の天満宮に祈願しました。すると病気が治ったため約束どおり男子を養子に引き取り育てました。この養子が後に慈祥院の開山となる泰門禅師で、黄檗宗の鉄牛禅師に師事しました。泰門は、実父母のために重年の妻が天満宮の横に建てた庵を、重年の妻の法名「慈祥院」に因んで寺名としました。しかし安政の大地震で倒壊したため、明治12年（1879）に天満宮の場所から現在地に移りました。

いいなり地蔵

その昔、この付近の川原にお地蔵さんが流れついたため、川のほとりに安置しました。この辺りは新田開発による新しい土地で、新しい村の守り神としてお地蔵さんを祀るようになりました。毎年8月14日には、子育て、子安を願ってお地蔵さんのお祭りが行なわれます。